



## 行政官としての己を磨く

コロンビア大学  
**生田 優人** IKUTA Yuto

平成 29年 4月 総務省採用  
同 消防庁国民保護・防災部防災課  
平成 29年 8月 佐賀県健康福祉部男女参画・こども局こども未来課  
平成 30年 7月 総務省自治大学校研究部  
平成 31年 4月 同 消防庁総務課  
令和 2年 7月 同 自治税務局都道府県税課  
令和 3年 7月 同 自治税務局都道府県税課直税第二係長  
令和 4年 4月 同 自治行政局地域政策課地域の元気創造推進係長  
令和 5年 7月 現職

### 世界がつながる場所

世界中から多様な人材が集まる国際都市、ニューヨーク。私の留学先であるコロンビア大学の国際公共政策大学院は、そのニューヨークに立地し、およそ世界90カ国から学生が集まっています。彼らの優秀さ、学びに対する貪欲さに毎日のように圧倒されながらも、私も一人の日本代表として、それに負けないよう必死に勉強に取り組んでいます。

### 留学の意義

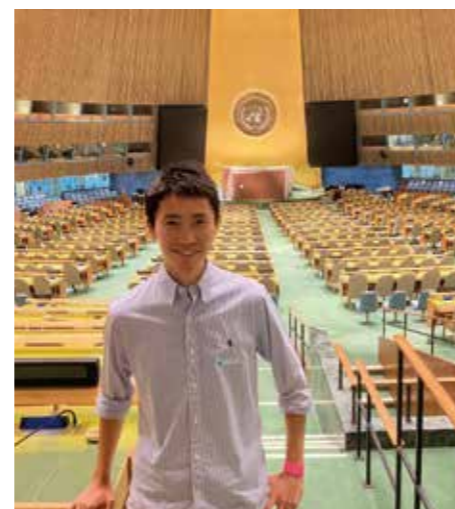
私にとっての留学の意義は、「行政官としての己を磨くこと」です。総務省職員は、地方自治という窓を通して、幅広い分野の政策課題に対処することが求められています。例えば私の場合、地方赴任先の佐賀県庁では保育幼稚園制度を担当していましたし、総務省で地方税を担当していた際には、電気・ガス供給業から金融、農業、医療に至るまで、様々な政策分野に関する税制措置の創設や改正に携わりました。これらの幅広い政策分野について、それぞれ短い任期の中で結果を出すためには、様々な分野に応用できる汎用性の高い知識やスキルが必要になります。

私は、それらを高めるためにニューヨークに来ました。例えば、私が現在大学院で学んでいる定量分析や費用便益分析は、あらゆる分野において、データに基づき最善の政策を立案するための礎となりますし、同じくマネジメントは、どのような仕事をしていても、チームで結果を出すためには必要な技術です。これら世界各国から集まった優秀な学生達と切磋琢磨しながら学ぶことで、大きな成長の可能性が生まれます。そして、行政官としての己の成長が日本社会への貢献につながるがこの仕事の醍醐味の一つでもあります。

### 国内外に広がる成長のフィールド

総務省職員は、成長の機会が数多く与えられています。留学は、上で述べたような知識やスキルに限らず、異なる価値観の中に身を置き、行政官として、そして人間としての自分を見つめ直す機会も与えてくれます。また、留学や海外勤務に限らずとも、地方赴任においては、身一つで飛び込んで成果を出すために自己成長が求められますし、様々な土地で暮らしたり、そこに住む方々と交流したりすることは、自分の物の見方をリフレッシュし、行政官として必要なバランス感覚を養うことにもつながります。こうした国内外に広がる成長のフィールドに魅力を感じ

じる方は、ぜひ総務省の門を叩いてみてください。



国連本部の見学にて



友人を日本食レストランに連れていくこともしばしば

### チャールズ川のほとりで

私は、現在、世界中の研究者や企業を惹きつけるイノベーションの中心地、米国マサチューセッツ工科大学 (MIT) において、大規模で複雑な技術・社会・経済システムを構築・分析・運営する、システムデザインマネジメントの手法を体系的に研究しています。このような手法は、日本ではあまりなじみがありませんが、総務省のような先進的な技術をベースとして、経済社会に大きなインパクトを与える政策を立案・執行する組織にとって、極めて重要な考え方であることを日々実感しています。

### 情報通信行政のシステムアーキテクトとして

私がこれまで経験してきた業務は、いずれも、このようなシステム思考の枠組みで理解することができます。例えば、モバイル市場の競争政策に携った際には、様々な利害関係者が、それぞれの信条や利益を追求することで形成された複雑な市場システムと向き合いました。また、電波の割当政策に携った際には、最先端の無線技術を活用した革新的なシステムが、日本、そして世界で生み出され、激しい競争を繰り広げる様子を目の当たりにしました。

この文脈において、総務省のミッションは、規制と振興策を両輪として、公共の利益にかなうようにシステムを発展させるとともに、創発(emergence)を促すことであると捉えることができます。課題を正確に洗い出した上でビジョンを描き、エビデンスに基づきシステムの背景や影響を慎重に分析し、数多くの利害関係者を調整しながら、法令や予算等によって直接・間接的にシステムをデザインしていくこのプロセスは困難の連続ですが、それを一つ一つ乗り越えていくための創意工夫は、行政官としての醍醐味でもあります。

### 日本の未来をデザインする

バブル崩壊後、日本経済は「失われた30年」と呼ばれる長期停滞に陥りました。少子高齢化や人口減少が加速する中、日本の地盤沈下は避けられないのでしょうか？ 私はそうは思いません。多様なバックグラウンドを持つMITの研究者や学生と議論していて気づかされるのは、日本の高い技術力や、口下手でも勤勉で調和を重んじる日本人の気質が、今でも大きな尊敬を集めているということです。

このポテンシャルを経済活性化につなげるアプローチは様々考えられますが、私は、既存のあらゆるシステムを再定義し、新たな価値創造を続ける情報通信技術 (ICT) に確かな手応えを感じています。

課題先進国の日本だからこそ、ICTを活用できる多くの機会と可能性に満ちています。今日よりも良い明日が来ると信じられる。そんな日本の未来を、総務省と一緒にデザインしませんか。



世界中から集まった学生と進めるチームプロジェクト



生まれたばかりの娘と過ごす大切なひと時



## 日本の未来をデザインする ～イノベーションの中心地から～

マサチューセッツ工科大学 (MIT)  
**丸山 駿** MARUYAMA Shun

平成 29年 4月 総務省採用  
同 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課  
令和 元年 7月 同 情報流通行政局放送政策課  
令和 2年 2月 同 情報流通行政局放送政策課調整係長  
令和 2年 7月 財務省大臣官房総合政策課政策調整室調査第二係長  
令和 4年 7月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課課長補佐  
併任 携帯周波数割当改革推進室  
令和 5年 7月 現職